（別紙4）　　平成　29　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2671400196		
法人名	京都南山城会		
事業所名	グループホーム山城ぬくもりの里		
所在地	京都府木津川市山城町上狛小杉谷6番地		
自己評価作成日	平成30年1月18日	評価結果市町村受理日	平成30年6月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2671400196-00&PrefCd=26&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　きょうと福祉ネットワーク一期一会
所在地	京都市伏見区久我御旅町3-20
訪問調査日	平成30年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

小高い丘の上にあり、自然に囲まれて四季折々の季節を感じることができます。同法人の特別養護老人ホームと隣接し、医療・看護・介護の連携を図っています。また、毎月の行事やサークルへの参加等、ご利用者・職員との交流もあり、安心・安全な暮らしを提供しています。玄関を挟んで2ユニットあり、ご利用者は自由に行き来でき、買物や調理等一人一人に合った暮らしの提供、個別ケアを行っています。職員は月に一度、職員会議や認知症ケアの勉強会、法人内委員会、外部研修への参加により、サービスの質の向上に努めています。ご家族の面会も多く、積極的に行事に参加され、グループホームの運営に協力的です。ご家族の協力を得ながら、地域の行事に参加し、交流を深め、個別ケアの充実を図っています。「ご家族・職員と共にご利用者の生活を支えている」という思いを大切にしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

JR奈良線上狛駅から徒歩1分の小高い丘にあり、同法人の特別養護老人ホームと隣接しており、それとは対照的な純和風の建物となっています。地域密着としては周辺に住宅が無い環境ですが、もっと交流したいと考え、積極的に地域に出向いています。昨年度は、上狛地域の地蔵盆に、準備・打ち合わせから家族の協力を得て参加し、その際の利用者の表情の変化こそが日頃のケアに活せる、理念が活きているという職員の気付きとなると伺いました。法人の介護理念が浸透している施設長や管理者、リーダーを中心に利用者一人ひとりと家族に寄り添った暮らしの提供、個別ケアを行っています。また、職員の育成では、リーダーや管理者の問いかけから更にどうすればよいかを自ら考え、発信できるよう問いかけを行う等、常にサービスの質の向上に努めています。「ご家族・職員と共にご利用者の生活を支えている」という姿勢は特筆できます

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「支え合い微笑みあって安心して住める家～今日も笑顔で家族のように～」という理念を掲げ、皆で共有し常に意識して実践につなげている。	法人理念に基づいた事業所独自の理念を掲げ、職員会議や研修で、具体的に理念につなげた取り組み方を伝え共有している。理念を踏まえた事業目標について毎年職員全員で話し合い掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材等は地域の商店に配達もしてもらっている。必要な物がある時は地域のスーパーへご利用者と買い物に出掛ける。市の敬老会に参加し、小学校行事（運動会、入学式など）にも参加している。	今年度より地蔵盆に事前打合せや準備の段階から参加し、継続へと取り組んでいる。法人の夏祭りは送迎バスが出るほど地域では根付いた交流行事となっている。小学校4年生の学習要項として見学がありトランプなどをして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で、キャラバンメイトとして認知症サポーター養成講座を開催している。小学生が学習のために来設し、ご利用者との関わりをもっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ケ月に一度開催し、写真を見て頂きながら行事や普段の様子を報告。事故やヒヤリハットを報告し、再発防止策等を説明する。また、立地条件から地域の方々に来設して頂く事が困難な為、こちらから参加できるような催し等の情報を収集。	本人、家族、市高齢介護課、地域住民、民生委員、包括支援センターの参加の基2か月に1回開催され、報告と意見交換がされている。来られていない家族には毎月の手紙で報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営協議会に参加して頂き、取り組みの内容を伝えたり、意見をいただいている。また、困ったときや分からないことがある時には連絡し、情報を得ている。	運営推進会議への参加で意見交換をしている。敬老会への参加人数の通知、実地指導の際にはアドバイスを受けた。所長は認知症サポーター養成講座や府などの研修で講師をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロについては法人として取り組んでおり、意識も高く身体拘束は行っていない。日中、玄関の施錠はせず見守り・所在確認のもと自由に行動できるようにしている。安全のため夜間17時～8時半までは玄関の施錠をしている。委員が外部研修に参加し、職員会議で報告する。	法人の高齢者虐待防止・身体拘束ゼロ推進委員会の抜き打ちのパトロールが行われている。委員会による職員向けアンケートが年2回行われ、「実際に、したことがあるか、見たことがあるか、困っている事」等様々な項目で、言葉や態度の気づきや注意喚起、意識付けを図っている。全体会議では事例検討会を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止・身体拘束ゼロ推進委員会が中心となり、取り組んでいる。アンケートや勉強会を行い、言葉による虐待も含め防止に努めている。委員会においてもパトロールを実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持てていないが、所長、リーダーは研修に参加し理解できており、必要に応じて活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項の読み合わせを行い、ゆっくりと時間をかけて説明している。その際、ご利用者・ご家族からの疑問や不安な点についても伺い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置。行事、運営推進会議などや来設時に随時、意見、要望を聞いている。また、ご利用者・ご家族に年に一度満足度調査の実施。意見については進撃に受け止め速やかに対応し、サービスの向上に努めている。	年に1回家族に満足度アンケートを実施し、利用者本人へは聞き取りを行っている。結果は集計して検討し、対応を返送している。家族会があり会議の総評は職員は参加しない形で行われ、家族会の意見は、手紙で受け取っているが評価はできていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見や提案を出し、検討している。年に2回、施設長や管理者との個人面談の機会を設け、意見を出しやすいようにしている。それ以外にも日常からのコミュニケーションを心掛け、ケアに反映している。	年2回職員の自己評価を実施し、その結果をもとに個人面談を実施している。リーダーや管理者の問いかけから更にどうすればよいかを自ら考え、発信できるよう問いかけを行う等、常に聞き取る体制を心掛けている。収集した意見・提案は皆で検討し実践に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価をする機会を持ち、それをもとに施設長や管理者との個人面談を実施し、自身を振り返り、向上心を持って働けるように促している。法人として昇格試験も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で各委員会主催で研修を企画し、職員のスキルアップを図っている。また個々の経験や能力に応じた法人内外の研修に参加し、日々のケアに活かせるように努めている。OJT研修での学びから現場でのトレーニングも進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外研修において、同業者の方々と交流する機会を設けている。また、法人内では、委員会や行事で職員間の交流を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所後、ご利用者との関わりから思いを知り、24時間シート、私の姿シートアセスメントをもとにライフサポートシートを作成。それらを活用し、安心して頂ける関係性が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入から暫くは連絡を密にして、ご家族の思いや困っておられること等に耳を傾け、共にご利用者を支えるという関係を築く。必要に応じて家人を含めたカンファレンスを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずはご利用者の状態を把握し、必要とされるサービスを見極めていく。その上で他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事（調理・清掃・買い物など）を共に行い、助け合う関係が築けている。特に調理では教わる事も多い。昔からの習慣などお聞きしながら共に助け合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者についての相談・報告は随時行っている。行事へも積極的に参加して頂けるように働きかけている。また、いつでも来ていただけやすい雰囲気作りを心掛けている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の機会には馴染みの場所へ出かけている。友人や知人が面会に来られた時にはゆっくりと過ごして頂けるように配慮している。地域の夏祭りにも参加し、ご家族の協力も得ながら家でゆっくり過ごされる方もおられる。	地域への日頃の外出に加えて市の敬老会や夏祭り、地蔵盆など地域の行事では旧知の人との再会や実家で家族と過ごすゆったりした時間等がある。そこにも自分の居場所があることの再確認となり、本人や家族の思いを尊重した良い取り組みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の様子から、席の配置を工夫してご利用者同士が良い関係を築けるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族にその後の様子をお聞きしたり、他施設入所や入院中の方には面会に伺う等している。サービス終了後もご家族が行事にボランティアで参加して下さっており、関係は続いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中でご利用者の暮らしに対する希望や意向を聞き取り、私の姿シート等を活用し、職員間で情報を共有し、関わりを深めている。	私の姿シート、24時間シート、担当のアセスメントシートを総括した「ライフサポートシート」を活用して一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族に生活歴を知りえる範囲で記入して頂いている。その中でサービスの利用に至った経緯も把握するよう努めている。また、ご利用者本人との会話からも情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴に加え、24時間シート・私の姿シート・アセスメントシートを統括したライフサポートシートを活用している。日々の記録も記入し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心に概ね6か月毎にアセスメントを更新し、カンファレンスを行っている。ご家族には面会時に意見をお聞きし、介護計画に活かしている。	日々の記録は記録用紙兼ミーティング用紙にケアプランの番号を記入して評価をしている。概ね6か月毎にライフサポートシートの見直しを行っている。カンファレンス当日に出席できない職員への配慮も行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容、気付きは個人カルテに記入し、情報を共有している。毎月、評価を行い、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者、ご家族の状況やニーズに応じて、外出や通院に同行等、柔軟に対応するよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	サークル活動や夏祭りは地域のボランティアの方々に訪問して頂き、ご利用者と一緒に過ごされる。市の敬老祝賀会でも地域の方々との交流を楽しまれている。地域リハビリも活用し豊かな生活への支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に引き続き診て頂けている。また、専門医への受診が必要と思われる場合は、ご家族と受診して頂いている。緊急時は主治医に指示を仰いで対応。定期的に往診もして頂いている。	入居前からのかかりつけ医の継続受診が基本だが、契約時に本人・家族の希望を聞き、希望があれば添うようにしている。緊急時は地域のかかりつけ医の協力で、いつでも指示が仰げる。診察内容や処方箋については「看護介護連携日誌」で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師と連携体制が整っている。毎日、看護師はグループホームに来られるので、ご利用者の状態を報告し必要な処置や指示を受けている。連携日誌を活用し、細かな情報も共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時サマリーを作成し、病棟に提供している。入院中は、ご家族や病院の地域医療連携室と連携し、ご利用者の状態や今後についての相談をしている。退院前にカンファレンスを行っている。退院サマリーをもとに退院後のケアに繋げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については契約時に説明をしている。ターミナルケア指針に基づき、十分な説明を行い、ご家族に看取り介護の署名をいただいている。かかりつけ医とも連携し、ご家族・看護師・職員と話し合い、チームで支援に取り組んでいる。	重要事項説明書に「重度化した場合の対応について」を記載し、契約時に「ターミナル指針」に基づき丁寧に説明行い「看取り介護の署名」をもらっている。状況に応じて、ターミナル診断の際など、その都度事業所のできることできないことを明確にして説明し、多職種がチームとして支えていく体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は看護師や主治医に連絡をとるが、定期的な訓練は行っていないため、全ての職員に応急処置の実践力は身についていないと思われる。普通救命講習の機会があれば受講するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施し、消防署との連携は図れており指導も受けている。訓練には新しい職員が参加できるよう勤務を配慮している。	法人本部と連携しながら土砂崩れ、火災、地震に備えた訓練を年2回昼夜想定で行っている。同敷地内にある法人本部の二階が地域住民も含めて避難場所になっている。備蓄は法人本部で行っている。	地域住民の高齢化と当事業所が高台にあることから周囲に人家がなく、災害発生時に地域との連携は実際には難しく課題とのことですが、認知症理解の為に積極的に地域に出向いて啓発活動をしたいと考えているので、運営推進会議で提案したり包括と協力していかれることをお勧めします。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の尊厳を守ること、言葉遣いや羞恥心を感じさせることのない対応に気をつけている。また、アンケート等で振り返りを行っている。	利用者の尊重は、一人ひとりの生活歴、環境、価値観などをよく知ることとして職員が把握しようとする意識を持つように職員間での勉強会やカンファレンスを積み重ねて意識付けを図り、身体拘束委員会の職員向けアンケートアンケートにより振り返りを行っている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いや希望を直接お聞きし、それが難しい場合は普段の関わりの中から思いを汲み取れるように努力している。ご利用者がご自分の思いを表したり、自己決定できるよう、意思を引き出す声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の暮らし方やその方のペースを大切にし、支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前から使用されていた化粧水や化粧品等を持ち込んで頂き、使用して頂くように声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は下ごしらえから味付け、盛り付けなど一緒に準備し食事している。片づけも分担し、会話を楽しみながら行っている。年2回、ご家族も巻き込んでランチ会も行っている。	食事は準備や片付けを利用者と職員が一緒に行っている。年間予定でボランティアの協力を得てお菓子づくりを行っている。月1回の居酒屋と年2回のランチ会は家族も参加している。芋煮会の下ごしらえの手伝いも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の状態に合わせ、必要な方には刻み食、ミキサー食などを提供し、摂取していただけるよう努めている。水分摂取量が少ない方にはご家族にも協力いただき、嗜好に合ったものを摂っていただけるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助を行い、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の排泄パターンを把握し、それぞれに合ったタイミングでトイレの声掛けや誘導を行っており、できるだけ布パンツでの生活をして頂いている。	利用者個々の排泄パターンを記録で確認、個別に適宜声掛けや誘導、見守りを行っている。利用者用トイレ入口に個々の利用者の認識に合わせて「トイレ」「便所」の貼紙や便器のイラストを描き、トイレの位置がすぐわかるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝になるべく乳製品を提供。ただし、ヨーグルトや冷たい牛乳でお体調を崩されるかたもおられる為、申し送りをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回以上を目安に午後から入浴して頂く。ある程度の入浴予定日は決めているが希望によって入浴日や入浴時間を変更したり柔軟に対応している。同性介助へも配慮している。	入浴について、曜日・時間帯・順序等取り決めはあるが、利用者の希望を優先し、その都度柔軟に対応している。強い拒否の利用者はないが、気が進まない様子があれば、利用者とよく話し合い、様子を見て、原因を探りながら対応している。同性介助を実践している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて日中休んで頂いている。夜間はご本人が眠くなるまで職員と過ごして頂く方もあり、個々に合わせた対応をしている。出来るだけ日中の生活にメリハリをつけ、夜はよく睡眠がとれるように工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書を読み、理解して服薬の支援ができるよう努めている。服薬時は必ず別の職員にて薬の確認を行い、ご利用者には呼名確認してから飲んで頂いている。服薬による状態の変化等は記録し、主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や関わりから、できることや好きな事を把握し、暮らしの中での役割をもっていただいたり、趣味に合ったサークル活動に参加して頂いている。毎月のカレンダー作成等も皆さんで取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	良い気候の時には地域の馴染みの場所や季節を感じられる場所へ出かけている。日常的には希望に沿って、一緒に散歩をしたり、本館の居酒屋や喫茶へ出掛けたり、外食や買い物をすることもある。	美容室や墓参り、花見に出かけている。スタッフ間の話し合いで週3日の買い物より息抜きでドライブに行くことにした。喫茶店や同敷地内他事業所で開催の居酒屋に行っている。家族の希望で日帰り旅行、お酒落をして奈良ホテルに家族と一緒に食事に出かけたりしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を所持されている方はほとんどなく、希望があれば一緒に買い物に行き、ご家族の了解のもと、立て替えて購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をされたり、手紙のやりとりもされている。絵手紙や年賀状も送っておられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく開放的であり、玄関やフロアには花を飾っている。裏の畑では野菜を育てていて季節を感じて頂ける。キッチンでは包丁の音や料理の匂いがあり、会話も弾み生活感がある。	純和風の外観。玄関を入ると木目調で手づくりのタイル細工が壁に飾らたり、温かい雰囲気を醸し出している。中庭を取り囲む廊下や食堂の大きな窓や掃出し、天窓など充分な採光がある。居室入口の前にも吹き抜けで天窓があり、明るく圧迫感のない空間となっている。一人になりたい時のスペースも山側に向いたソファーなどで作られ、トイレも居室近くに設置されるなど居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お好きな場所で過ごして頂けるようソファやベンチを設置し、寛げるスペースがある。玄関前のベンチで座られたり、両ユニットを自由に行き来されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、使い慣れた馴染みの家具などを持って来て頂くように伝え、ご本人にとって居心地の良い、安心できる部屋になるようにしている。お花がお好きなご利用者のご家族は、毎週お花を購入されて居室に飾られている。	建物周囲のデッキ部分に出る大型のガラス戸、窓が各居室にあり、明るく広々している。利用者がなじみの家具や調度品を置いたり、家族が本人の好きな花や写真を飾り和やかな雰囲気となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで安全に移動が出来る。各居室には表札がある。トイレには台を設置している所があり、立位が厳しい方にも立って頂きやすいよう工夫している。「トイレ」という表示ではわかりにくい方の為にあえて「便所」や絵で表示する工夫をしている。		